

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】専門演習Ⅳ		
担当者(Instructors)	谷村 祐子	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本授業は、専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび関連科目で学んだ内容を踏まえ、卒業論文もしくはゼミナール論文のための研究を進めていく。そのことによって、論理的な考え方と日本語の書類作成能力及び資料作りのノウハウを学ぶことを目的とする。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業は、グループワークを中心とした演習形式で実施され、受講者同士での課題に関するプレゼンテーション、フィールドワーク、ディスカッション、ピアインストラクション（根拠やプロセスを教え合うこと）を積極的に取り入れる。

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス、夏期休暇中の進捗状況の確認、面談（1）	授業の進め方、夏期休暇中の進捗状況について確認する。	<input type="checkbox"/>
第2回	卒業論文の初稿の作成・提出	卒業論文の初稿を作成・提出する。	<input type="checkbox"/>
第3回	初稿の修正	教員、受講者より指摘のあった箇所について修正する（1）。	<input type="checkbox"/>
第4回	卒業論文第2稿の作成・提出	卒業論文の第2稿を作成・提出する。	<input type="checkbox"/>
第5回	第2稿の修正	教員、受講者より指摘のあった箇所について修正する（2）。	<input type="checkbox"/>
第6回	卒業論文第3稿の作成・提出	卒業論文の第3稿を作成・提出する。	<input type="checkbox"/>
第7回	第3稿の修正	教員、受講者より指摘のあった箇所について修正する（3）。	<input type="checkbox"/>
第8回	卒業論文第4稿の作成・提出	卒業論文の第4稿を作成・提出する。	<input type="checkbox"/>
第9回	第4稿の修正	教員、受講者より指摘のあった箇所について修正する（4）。	<input type="checkbox"/>
第10回	卒業論文の完成	教員とやり取りを終了した最終稿を提出する。	<input type="checkbox"/>
第11回	要旨・パワーポイントの作成	要旨・研究内容のパワーポイントを作成して提出する。	<input type="checkbox"/>
第12回	コース内発表会（1）	スポーツトレーナーコースでゼミナール大会に発表する代表者を選抜する。	<input type="checkbox"/>
第13回	コース内発表会（2）	スポーツトレーナーコースでゼミナール大会に発表する代表者を選抜する。	<input type="checkbox"/>
第14回	ゼミナール大会（1）	演習内で選出された代表者による発表・聴講し、各研究に対する理解を深める。	<input type="checkbox"/>
第15回	ゼミナール大会（2）	演習内で選出された代表者による発表・聴講し、各研究に対する理解を深める。	<input type="checkbox"/>

## ■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

【共通】 事前：「レポートの作成の仕方」「プレゼンの仕方」などの研究に関する書籍を1冊は読んでみる。（2時間程度）。事後：演習ノート（卒論ノート）を作成し、授業で指摘された点、学んだ点をまとめる。 毎回、課題が出るので、その課題に取り組む（2時間程度）。

## ■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題レポートは添削・採点をしてから返却する。 全体として共通のポイントに関しては全体で共有し、個別のポイントに関しては学生個々に個別指導をする

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分 (Division)	DP区分 (DP division)	内容 (DP contents)
	◆ 2018人間健康DP2	卒業論文もしくはゼミナール論文の研究計画の立案するなかで健康、スポーツの分野における問題意識をもち、解決方法を探求することができる。具体的には「自ら計画を立て実行できる」「教員から指摘された点をすべて修正してある」ことが達成されているかで判断する。

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験 (Written exam)	実技試験 (Practical exam)	レポート試験 (Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他 (Other)
0%	0%	0%	30%	70%
<b>授業内試験等 (具体的内容) (Specific contents)</b> ゼミ内発表会 (10%) 要旨提出 (10%) 卒業論文 (60%)				

■テキスト (Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	資料は適宜配布をする	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	福永哲夫、山本正嘉. 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方 (体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ). 市村出版.	978-4902109498
2	出村慎一. 健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方. 杏林書院.	978-4764411623
3	酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版. 共立出版	978-4320005983
4		
5		